

大館ふるさとキャリア教育

小学校の取り組み紹介

地域社会と直接触れ合う体験活動を通じ、地元で根差し自立する人材の育成を目指して大館市が独自に推進している「大館ふるさと・キャリア教育」。市内の各学校が地域の特色などを生かしたさまざまな活動に取り組んでいる。県外からの注目度も高く、視察団も多く訪れている。今回は小学校にスポットを当て、代表的な取り組みを紹介していく。



地域と協力してヒマワリを栽培し、製品化に取り組んでいる釈迦内小

地域ぐるみで栽培に汗

釈迦内小
サンフラワープロジェクト 成果品手に充実感

釈迦内小（三浦栄一校長）は、平成22年度に4年生児童が取り組んだ「ひまわり油大作戦」をきっかけに、23年度に企画された「釈迦内サンフラワープロジェクト」の中核として、全校児童と地域が一体となってヒマワリの栽培から収穫、商品化、販売活動などを展開。実践的なキャリア教育と地域活性化に取り組

中核として、全校児童と地域が一体となってヒマワリの栽培から収穫、商品化、販売活動などを展開。実践的なキャリア教育と地域活性化に取り組

地域全体が“教室”、市民一人一人が“先生”

して種約40キを収穫。秋田大北秋田分校の学生も作業に参加して交流を深め合い、努力が形になっていく喜びを感じた。

種は小坂町の製油業者に依頼してひまわり油（50〜150ミリ入り）1240本を製造したほか、ひまわり茶（80ミリ入り）も360個作り、大館圏域産業祭などの会場で販売。呼び込み活動なども積極的に行い、販売業務の大変さと楽しさを体験した。

対馬陽介君（6年）は「地域の人たちと一緒に活動する中で互いの顔を覚え、親しくなることができた」と活動の成果を語り、「マスコットキャラクターなども作り、ヒマワリが釈迦内のシンボルになってほしい」と今後の発展に期待を込めた。